

2021 年 4 月 22 日

各 位

太 陽 生 命 保 険 株 式 会 社
代 表 取 締 役 社 長 副 島 直 樹
東 京 都 中 央 区 日 本 橋 2 丁 目 7 番 1 号

太陽生命、クレディ・アグリコルCIB 発行のトランジションボンドを購入

T&D保険グループの太陽生命保険株式会社（社長 副島直樹）（以下、「太陽生命」）は、この度、クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク^(※1)（以下、「CACIB」）が発行するトランジションボンド（私募形式、総額 3,000 万ドル）（以下、「本債券」）に投資しましたのでお知らせいたします。なお、本件はCACIB 発行のトランジションボンドとしては、本邦投資家向けの初めて^(※2)の私募案件です。

トランジションボンドとは、低炭素社会等へ移行（＝トランジション）するためのプロジェクトを資金使途とする債券のことを言います。本債券への投資資金は、低炭素なビジネスモデルへ移行するためのプロジェクトに充当されます。CACIB は取引先が温室効果ガスの排出量を大幅に削減するためのトランジション戦略をサポートすることにコミットしています。

<本債券の概要>

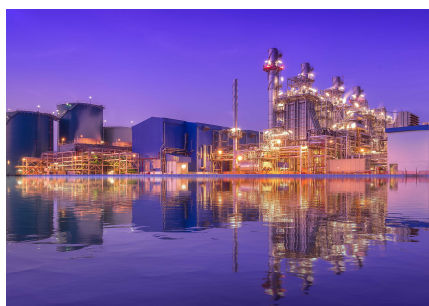
発行体：クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク

投資額：3,000 万ドル（約 33 億円相当）※1 ドル=109.58 円で換算

償還日：2031 年 4 月 22 日

資金使途：発行体が定める適格トランジション資産の資金調達に充当。適格トランジション資産は、以下の炭素集約型セクターの低炭素化プロジェクトとなっております。

- ・エネルギー：石炭発電からガス火力発電への転換資金、廃棄物から発電する設備資金等
- ・運 輸：化石燃料から天然ガスで稼働する船舶の購入資金、航空機代替燃料^(※3) 関連資金等
- ・産 業：高炭素なセメント・ガラス等の製造プロセスを低炭素へ転換する資金等



石炭発電からガス火力発電へ



航空機代替燃料



天然ガスで稼働する船舶

(※1) クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンクは、資産および自己資本(Tier1)ベースで世界最大手の金融グループのひとつである、クレディ・アグリコル・グループの法人営業・投資銀行部門として、本店モンルージュ（フランス）、ロンドン、ニューヨーク、東京、香港を中心に世界各国に、融資業務、キャピタル・マーケット及び投資銀行業務を主とした幅広い商品とサービスを世界各国で提供しています。

(※2) CACIB による。(2021 年 4 月時点)

(※3) 植物や廃油、都市ゴミ等を原料として作られ、化石燃料に比べて原料生育過程を含むライフサイクル全体でみた CO2 排出量が少ない航空機向け燃料。

太陽生命は、2007 年 3 月に日本の生命保険会社として初めて「責任投資原則（P R I）」^(※4)に署名し、環境（E）、社会（S）、企業統治（G）の課題に十分配慮し、持続可能な社会の実現に向けた資産運用を行っています。太陽生命は、これからも責任ある機関投資家として、持続可能な社会の形成に貢献できるよう取り組みを推進してまいります。

クレディ・アグリコル・グループは、2019 年から 2022 年までの中期経営計画の中で 2030 年までに EU 及び OECD 諸国における燃料炭素生産に対するファイナンスからの撤退やフランス国内における再生可能エネルギープロジェクトの 3 件に 1 件のファイナンス参画、CACIB のグリーンローンポートフォリオの倍増・2022 年までの 130 億ユーロの残高目標設定等により、エネルギー転換のための資金調達に対するコミットメントを強化して行くことを掲げています。

以 上

(※4) 責任投資原則(PRI=Principles for Responsible Investment)とは、2005 年に当時の国連事務総長であったコフィー・アナン氏が金融業界に対して提唱した原則です。投資の意思決定プロセスや株式所有方針の決定に際して、環境・社会・企業統治（E S G）の課題を考慮し、受益者のために、より優れた長期的な投資効果と持続的な金融市場を実現していくための行動規範です。